

BONCHI BOOKSTORE



ひとりでに、持続可能な地域や社会が生まれる場所。

TAKE FREE

時代を読み解く 500冊 第2回

次の時代はどんな時代？

現代は、「知識と情報の時代」です。「Society5.0」といわれる次の時代はどのような時代になるのでしょうか？それは人間中心の「創造社会」だと思います。『創造』と『生命』の時代です。これまでに失われてきた人間性を回復し、一人ひとりの創造力を基盤とした社会を築くことによって、人々が豊かに暮らすことのできる社会を実現することができると思います。これからの時代を読み解くために参考となるような書物を紹介させていただきます。



伊藤 忠通

奈良県立大学名誉教授、前奈良県立大学学長。
専門分野は財政学。



社会イノベーションと地域の持続性
場の形成と社会的受容性の醸成
編 / 松岡 俊二 有斐閣

現代の社会には、自然環境の破壊、人口の少子高齢化、労働市場の不安定化、所得格差の拡大、地域医療の崩壊など、複雑な社会的問題が渦巻いています。市民と地域社会が、その逆境を転じて繁栄を築いていく仕組みについて説明しています。



ファクトフルネス
著 / ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロランド 日経 BP 社
訳 / 上杉周作、関美和

ファクトフルネスとはデータや事実にもとづき、世界を読み解く習慣。賢い人ほどとられる 10 の思い込みから解放されれば、癒され、世界を正しく見るスキルが身につきます。本書では世界の本当の姿を知るために、教育、貧困、環境、エネルギー、人口など幅広い分野を取り上げています。



コミュニティと都市の未来
新しい共生の作法
著 / 吉原直樹 筑摩書房

地方のコミュニティは衰退し、都市はグローバル化によって格差が拡大し疲弊しています。そして都市の論理が地域のコミュニティを崩壊させている一通常のように否定的に語られることが多いのですが、多様性を認める寛容な精神に満ちた作法が、既存のコミュニティをも変えていく可能性を探っています。



コミュニティを問いなおす
つながり・都市・日本社会の未来
著 / 広井良典 筑摩書房

戦後の日本社会で人々は、会社や家族という「共同体」を築き、生活の基盤としてきました。しかし、そうした「関係性」のあり方を可能にした経済成長の時代が終わるとともに、個人の社会的孤立は深刻化しています。「個人」が独立しつつ、いかに新たなコミュニティを創造するかが地球社会の今後を展望する上で中心的課題です。都市、グローバル化、社会保障など多様な観点から、新たな「つながり」の形を掘り下げています。



デザイン思考が世界を変える
イノベーションを導く新しい考え方<アップデート版>
著 / ティム・ブラウン 早川書房 訳 / 千葉敏生

人々のニーズを探り出し、飛躍的発想で生活を豊かにする一それが「デザイン思考」。研究や開発部門だけでなく全社的に浸透させれば、組織は持続的にイノベーションを生み出すことができます。デザインとイノベーションの必要性を、具体例を交えて解説。組織を蘇らせる方法や社会的問題を解決するための秘訣を経験談とともに明かしています。



限界費用ゼロ社会
<モノのインターネット>と共有型経済の台頭
著 / ジェレミー・リフキン NHK出版 訳 / 柴田裕之

いま、経済パラダイムの大転換が進行しつつあります。資本主義が衰退し、代わりに台頭してくるのが、共有型経済です。人々が協働でモノやサービスを生産し、共有し、管理する新しい社会が 21 世紀に実現します。世界的な文明評論家が、この大変革のメカニズムを読み、確かな未来展望を描いています。21世紀の経済と社会の潮流がわかります。



知識創造企業

著 / 野中郁次郎、竹内弘高 東洋経済新報社

世界に示した初の日本発「経営理論」。組織として知識を創造する条件を分析し、グローバル化が進んでいく中、より良いもの、新しいものを生み出す条件を導き出しています。日本企業の強みである組織的知識創造の方法について説いています。



創発的破壊 未来をつくるイノベーション

著 / 米倉誠一郎 ミシマ社

多額の負債、長引く不況、そして東日本大震災という試練に直面した日本。しかし、国内、海外問わず、既に「未来」は起きています。そうした事例を多面的に考察し、日本のパラダイム・チェンジの方向性を導き出しています。



人口減少社会のデザイン

著 / 広井良典 東洋経済新報社

2050年、日本は持続可能か? 「都市集中型」か「地方分散型」か、あるいは第3の道はあるのか? 借金の先送り、格差拡大、社会的孤立の進行…転換を図るための10の論点と提言が示されています。



サードプレイス コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」

著 / レイ・オルデンバーグ みずすず書房 訳 / 忠平美幸

今日のコミュニティ論におけるキーワード「サードプレイス」。居酒屋、カフェ、本屋、図書館…情報・意見交換の場、地域活動の拠点として機能する“サードプレイス”の概念を社会学の見知から多角的に論じた書です。



ワーク・シフト 孤独と貧困から自由になる働き方の未来図<2025>

著 / リンダ・グラットン プレジデント社 訳 / 池村千秋

2025年、私たちはどのように働いているのか。「漠然と迎える未来」か、それとも「主体的に築く未来」か。英タイムズ紙・世界のトップ15ビジネス思想家が、孤独と貧困から自由になる働き方の未来図を描いています。



ライフ・シフト 100年時代の人生戦略

著 / リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット 東洋経済新報社 訳 / 池村千秋

人生100年時代の生き方と働き方を考えるうえで戦略的人生設計の必読書。お金偏重の人生を、根底から変える。成長至上の次に来る、新しい生き方とは。世界で活躍するビジネス思想家たちが、まったく新しいビジョンを示しています。



茶の本

著 / 岡倉天心 角川書店 訳 / 大久保喬樹

芸術の域にまで高められた「茶道」の精神を紹介しながら、伝統的な日本文化の独自性を詩情豊かに解き明かしています。日本文化が大切に育んできた自然と人間の調和共生の関係は、環境破壊の進んだ今日、わたしたちに心の豊かさや新たな文明の指針を与えてくれます。ロマンチックで波乱に富んだ生涯を、エピソードと証言で綴った読み物風伝記も付載。天心の思想と人物が理解できる入門書。



方法序説

著 / ルネ・デカルト 筑摩書房 訳 / 山田弘明

「私は考える、ゆえに私はある」近代以降のすべての哲学は、「考える主体」を導き出すこの言葉から始まりました。これは、すべての人間が理性を有することを前提として、近代精神の確立を宣言するものです。本書は、世界でもっとも読まれている哲学古典の一つ。しかし、若きデカルトが、すべてを疑うという地点から発して、精神と神の存在を証するまでには、緻密な思索を重ねる必要がありました。その思索はどのようなものだったのか。

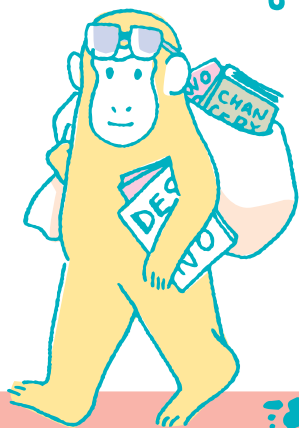


「日本人論」再考

著 / 船岡建夫 講談社

明治以降、夥しい数の日本人論が刊行されてきました。『武士道』『菊と刀』『甘え』の構造』などの本はなぜ書かれ、読まれ、そして好評を博すのでしょうか。そこには、私たちが繰り返し襲う「不安」があります。欧米文明に遭遇し、戸惑う近代日本人のアイデンティティの不安の在処を抉り出しています。本書は、日本人論の総決算であり、150年間の近代日本の物語でもあります。

ひと足お先に。



社会的共通資本

著 / 宇沢弘文 (岩波新書) 岩波書店

豊かな経済生活を営み、優れた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を安定的に維持する—このことを可能にする社会的装置が「社会的共通資本」。その考え方や役割を、経済学史的な位置づけ、農業、都市、医療、教育といった具体的テーマに即して明示しています。



<https://bonchi.fun/>

奈良県奈良市橋本町3-1

☎ 0742-27-1111

nara.tomosu@gmail.com

発行/編集 : TOMOSU

原稿 : 伊藤 忠通

デザイン : 倉 有希